

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	唐津市立鏡中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや差別を見抜き、許さない人権・同和教育の推進を図る。 ・生徒の学習意欲を高め、学びに向かわせる授業を確立する。また、家庭と連携を図りながら、家庭学習の充実を目指す。 ・SDGsの視点を意識した教育活動の展開を行い、防災教育に力を入れる。 ・タイムマネジメントを意識した教職員の働き方改革を推進し、業務の効率化と時間外勤務時間の削減を目指す。
2 学校教育目標	ともに学び 心がふれあう学校
3 本年度の重点目標	①学びに向かう力を高める ②校則の見直しに取り組む ③新たな校風(学年が上がるにつれての規範意識の高揚)の樹立を目指す

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は87%であった。	A	・落ち着いた生活ができる環境になったことから、生徒の学習意欲を高め、学びに向かわせる授業を確立してもらいたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○学びに向かう力を高める学習活動の研究 ○Aさんをやる気にさせるような指導法の工夫	○苦手な教科の勉強をしている生徒の割合が70%以上。 ○平日に学年+10分以上の家庭学習(塾を含む)をしている生徒の割合50%以上。 ○Aさんをやる気にさせるための実践紹介を行った教員100%。	・Aさんをやる気にさせるための実践紹介 ・ターゲットになる生徒をしぼり、学びに向かう開発的生徒指導型授業の構築を図る。	A	○苦手な教科の勉強をしている生徒の割合は72.2%であった。 ○平日に学年+10分以上の家庭学習(塾を含む)をしている生徒の割合は61.8%であった。 ○Aさんをやる気にさせるための実践紹介を行った教員は100%であった。	A	・コロナの影響で授業参観がなくなり学校生活や授業の様子が見られなかった。ユーチューブ等で授業を配信してはどうか。また、保護者がオンラインで授業参観するなど、学校生活の様子を身近に知りたい。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○質問紙調査の「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が80%以上。	・人権講演会(人権集会)や道德に関するアンケートの実施 ・道德科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・保護者や地域の方と連携したボランティア活動の実施	A	○質問紙調査の「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が89.0%であった。	A	・子離れして自立していく事を教えていけないといけないと思う。 ・子どもの頃に家庭で様々な体験をさせることは必要であり、見えない学力が幼少期にはとても大切である。	・道德教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的な対応ができていると回答した教員100%。	・いじめ対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	B	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的な対応ができていると回答した教員は90.0%であった。	B	・担任の先生は、とても子どもの立場で相談にのってくださり、それだけでも子どもが安心して過ごし、大人を信頼して良いと思わせてくれた。結果はどうであれ、話を聞いていただけることを有難く感じている。	・生徒指導主事 ・各学年生活指導担当
	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が80%以上。	・開発的生徒指導の推進による新たな校風(学年が上がるごとに規範意識の高揚)の樹立を図る。 ・各種体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が61.9%であったが、「自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト(SPES)」メンバーがユニセフ募金活動を自分たちで企画して実行に移すなど、持続可能な社会(SDGs)の実現に向けて、自分たちにできることを考え、行動する力が育っている。	B	・プリントはあまり見ないが、ホームページに情報発信していただけたので助かっている。この前、イオンで募金(ボランティア活動)をしている鏡中の生徒を見た。休みの日なのに熱心に頑張っている姿を見て感動した。すばらしい。今はコロナ禍なので活動も制限されると思うが、生徒を褒めてもらいたい。	・各学年主任 ・各担任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上。 ●毎日朝食をとって登校する生徒95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	A	●「健康に食事は大切である」と考える生徒が97.0%であった。 ●毎日朝食をとって登校する生徒が92.9%であった。	A	・朝食を毎朝食べている生徒がほとんどだが、中には朝食を取らないで登校する生徒がいることも聞いている。	・食育担当 ・養護教諭
	○将来を生き抜くための防災教育の導入	○年度内に講師を招聘し、防災教育を実施する。	・日本赤十字社(佐賀支部)からの講師招聘	A	○6月の唐津市教育の日日本赤十字社佐賀支部より講師を招聘し、防災教育を実施した。 ○11月に安全教育担当が作成した「水害についての避難訓練」のPPを用いて、校区内の洪水の警戒区域及び土砂災害警戒区域を改めて確認した。	A	・SDGsの視点を意識しながら、SPES(自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト)と連携を図りながら、継続した防災教育を行ってほしい。	・各学年主任 ・各担任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間以内)を遵守する職員80%以上。	・定時退勤日(毎週水曜日)の励行 ・部活動休養日の設定	B	●新型コロナウイルス感染拡大の対応等で、2学期末までに月45時間以内の職員は6割程度、毎週水曜日に定時退勤をする職員は7割程度であった。 ○全職員の時間外勤務時間の平均42:00時間となり、昨年度よりも4:00時間短縮することができた。	B	・コロナ対応で、先生方も忙しいと思う。お身体ご自愛ください。	・管理職
	○タイムマネジメントの導入による自主自立の精神の涵養	○タイムマネジメントの導入により、自身が時間を意識して業務改善を行うようになった教員80%以上。	・退勤予定時刻(ホワイトボードへの記入)の掲示による可視化	B	○タイムマネジメントの導入により、自身が時間を意識して業務改善を行うようになった教員は70.0%であった。	B	・コロナ対応で勤務時間以外にも、子どもたちの対応をしていると聞いている。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の視点による生徒対応及び支援を要する生徒の早期発見・早期対応	○教員の専門性と意識の向上 ○「チーム鏡」で諸問題解決に組織で対応	○特別支援教育の視点による生徒対応力が向上した教員が85%以上。 ○学校評価保護者アンケートにおいて、「学校は、安心・安全で、いじめのない学校・学級づくりに努めている」の肯定的評価90%以上。	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・支援会議(ケース会議)の定期的な開催と職員間の情報共有 ・SCやSSWまたは関係諸機関との積極的な連携	A	○特別支援教育の視点による生徒対応力が向上した教員は74.0%であった。 ○学校評価保護者アンケートにおいて、「学校は、安心・安全で、いじめのない学校・学級づくりに努めている」の肯定的評価は91.0%であった。 ○支援会議を定期的に開催し、職員間の「報・連・相」の徹底を図った。	A	・小さな出来事でも、担任の先生から電話連絡があり、安心して子どもを学校に預けられる。2学期に長く休む事があり、「大変だったね」「身長が伸びた」など担任以外の先生からも声をかけてもらい、子どもたちと関わってくださっているのが伝わった。ありがとうございます。	・特別支援教育コーディネーター ・教育相談主任 ・生徒指導主事
○校則の見直しによる自主・自律の精神の高揚	○制服の見直しを含めた校則の見直しを行う	○生徒会や育友会と連携し、年度内の制服の見直しを含めた校則の見直しの実施。	・生徒会や育友会と連携による校則の見直し	A	○生徒会や育友会と連携して校則の見直しを検討し、担当から保護者及び生徒に対して、改正点を踏まえた校則として示すことができた。また、学校職員及び保護者から成る制服検討委員会を開催し、保護者アンケートの結果を踏まえ、今後制服の見直しを進めていくことを確認した。	A	・新たな鏡中の校風(学年が上がるにつれての規範意識の高揚)の樹立を目指し、制服の見直しも着実に進めてもらいたい。	・生徒指導主事
○SDGsの視点を意識した教育活動の展開	○SDGsの担い手となる人を育てる「質の高い教育の提供」	○SDGsを意識した教育の実践を心がけた教員が85%以上。	・「SDGs～持続可能な開発目標～」を意識した授業の展開を通して、持続可能な社会を創るために学ぶことを伝える。	A	○SDGsを意識した教育の実践を心がけた教員が94.0%であった。	A	・アフターコロナを見据え、SDGs(持続可能な社会)の担い手となる人を育ててほしい。	・各教科担当 ・各学年

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

<p>5 総合評価・次年度への展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会(SDGs)の実現に向けて、SPES(自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト)メンバーを中心に、自分たちにできることを考え、実践に移す力を育むことで、自己有用感を更に高めていく。 ・SDGsの視点を意識しながら、SPES(自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト)と連携を図りながら、継続した防災教育を行う。 ・今年度実践した人権・同和教育の内容をベースにした、新たな鏡中のいじめや差別を見抜き、許さない人権・同和教育の推進を図る。 ・落ち着いた生活ができる環境になったことから、生徒の学習意欲を高め、学びに向かわせる授業を確立する。
------------------------------	---